

# 沢トレ 2019/真木川・大ゴ沢

西 正子

●2019 年 5 月 26 日(日) 晴れ

●メンバー 白井 西 A 西 M

●コースタイム 約 6 時間 15 分(遡行 2 時間)

桑西林道→入渓点→米背負峠→大谷ケ丸→コンドウ丸→大鹿峠→景德院→甲斐大和駅

3 年ぶりになる沢トレを、大菩薩山系の南端、真木川・大ゴ沢で行った。コンパクトながら、ナメとナメ滝が美しく、最近入渓者が増えてきた沢である。

大月駅から予約タクシーに乗車。大峠に向かう真木小金沢林道を走り、左から桑西林道が入る地点で車を降りる。釣りらしき車が 5、6 台あり、その先がゲートになっていた。ゲートをくぐり桑西林道を進む。そのまま 30 分ほど歩いたところが大ゴ沢の入渓点だった。

最初は堰堤ばかりなので、右岸の踏跡を進む。踏跡が薄くなると最後の大堰堤で、そこで靴を履き替えた。

この数日は全国的な異常高温。林道歩きでは真夏の太陽に汗が噴き出たが、沢に入ると一変、まわりの空気は冷涼で、流れに足を浸す喜びを感じる。

すぐにゴーロ歩きが終わり、2 段 10m の滝を越えると、ナメとナメ滝の溪相がはじまる。どれも傾斜がなく、水面を蹴りながら楽しく遡行する。高さのない場所では、わざと難しいルートを選び、フリクションの感覚を確かめた。

1 時間ほどで今日のハイライト「20m の大ナメ滝」に着く。形のよい立派な滝で、飛沫が陽光にきらきら輝いている。近づいて観察すると、中段までは流れの右を行けそうだが、落ち口付近はホールドが少ないように見受けられる。無理をせず、右手の茂みを登り上がった。

その先、数ヶ所の小滝を過ぎると、しばらくはゴーロが続くが、左からの支沢を 1 本分けるあた

りからふたたびナメ床が復活した。

2 つ目の出し物「60m のナメ」は、巾が広くないので名前ほどの迫力はないが、よい感じのナメが連続し、なかなか楽しめる場所だった。

このナメが終わると水量が激減し、最後の二股が見えてきた。ここは右手を選び、ツメに入っていく。稜線近くになると傾斜が増したため、右の尾根にルートを選んだ。じっさいはこの尾根もやせていて、不安定な立ち木や浮石などで緊張したが、それでも空は近く、20 分ほどで稜線登山道「米背負峠」に着いた。甲州側から真木集落に米や物資を運ぶことから名づけられた歴史ある峠だ。

沢装備を解き、小休止する。沢があっけなかったもので、大谷ケ丸(1643.8m)～コンドウ丸(1392m)～大鹿峠を経て甲斐大和駅まで歩くことにした。さいわいなことに地上の熱気は山々には届かず、やわらかな新緑の中、蝉しぐれがまるでシャワーのようだった。

大ゴ沢は遡行時間が正味 2 時間、やや物足りないものの、周囲が開けているので、苔や濁りのない清涼な沢だった。倒木やヤブ漕ぎも少なく、すっきりした沢歩きプラス稜線散歩を好む人にとっては、もってこいの場所だと思う。

20m の大ナメ滝

